

- 容と予算を提案 (8 月頃まで)
2. 総会にて事業提案を行い, 事業実施の可否を決定 (9-10 月)
 3. 翌年度の予算計画に計上 (2 月)
 4. 基金の移管と事業の実施 (4 月から)
- 7) 『雪氷辞典』の改訂について
『雪氷辞典』の改訂にともない, 各分科会の編集

委員として, 氷河情報センターからは中澤文男庶務幹事が推薦された。
(津滝 俊: 北海道大学大学院環境科学院/低温科学研究所, 中澤文男: 新領域融合研究センター/国立極地研究所)

(2010 年 10 月 7 日受付)

2010 年度 凍土分科会報告

雪氷研究大会 (2010・仙台) において凍土分科会セッションおよび総会をおこなった。参加者は 18 名であった。

日 時: 平成 22 年 9 月 27 日 (月) 15:45-17:45
場 所: 東京エレクトロンホール宮城 401 会議室
講演会 「モンゴル・永久凍土地帯における環境の現状」(15:45-17:10)

モンゴル北部地域は, 東シベリアの永久凍土地帯やタイガ地帯の南端に位置し, 気候変動の影響が表れやすい場所である。武田分科会長 (帯広畜産大) より講演会の趣旨説明に続き, モンゴルを対象に現在研究を行っている 3 つのプロジェクトについて以下の講演があった。北海道大学地球環境科学研究所の石川守氏から「モンゴル永久凍土の分布と変動の実態」と題し, 約 40 地点における近年の地温測定結果と既存のデータとの比較が紹介された。海洋研究開発機構の飯島慈裕氏からは「モンゴル森林-草原斜面における凍土環境と水循環」と題し, モンゴル北部の南北斜面に特徴的に分布する草原と森林における蒸発散や流出特性と凍土環境との対応関係について報告された。武田分科会長からは「モンゴル北部永久凍土地帯における森林環境に与える火災の影響」と題し, モンゴル北部フスグル地域のカラマツ森下の永久凍土に及ぼす火災の影響, 再生や更新を支配する因子, また火災の利益・不利益について, 現地調査結果が紹介された。

議 論 「北海道の凍結深分布測定について」
(17:10-17:30)

昨年の分科会セッションで宮城大学の原田鉦一郎氏より提案のあった北海道内凍結深分布の調査について, 具体的な実現の可能性を探る議論を行った。測定した分布図を何に利用するのか, 分布図作りの具体的目的, 測定に協力する人の動機付けなど, プロジェクトとして考えるには目的をより明確にする必要があること, それをもとに, 測定項目と地点を, 既に測定を行っている地点データも考慮にいれ選定すべきであることなど意見が寄せられた。

分科会総会 (17:30-17:45)

昨年度の活動報告として, 分科会メーリングリストの整備, 第 10 回「永久凍土のモニタリングと変動に関する研究集会」の後援, 大学間交流セミナーの後援, 北十勝 GEO ツアーの後援などが紹介され, H21 年度の監査報告が示された。本年度の活動計画については, これらの集会, セミナー, ツアーの後援の継続, 北海道凍結深分布プロジェクト案の継続討議が上げられた。「雪氷辞典」の改訂にあたる編集委員には渡辺幹事を選出した。また, 関連国際会議 (EUCOP, ICOP, ISAR, AGU など) の紹介, 雪氷本誌への投稿の推奨, 特集号の予定などがそれぞれ報告された。

(凍土分科会幹事 渡辺晋生)

(2010 年 10 月 7 日受付)